

ちよつとしい話

～ いろは歌の教えとは ～

弘法大師様がお詠みになったとされている、いろは48文字に隠された教えを少しお話ししてみます。

現存する最古の「いろはうた」は、承暦3年（1079）書写本の「金光明最勝王経音義」に万葉がなで記されているといひます。「大般涅槃経」卷下の中に

諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為樂

と、教示されています。この一節をお大師様は次のようにあてはめられたのです。

- 諸行は無常なり……………色は匂へど散りぬるを
- 是れ生滅の法なり……………我が世誰ぞ常ならむ
- 生滅滅し已りて……………有為の奥山今日越えて
- 寂滅を樂と為す……………浅き夢見じ酔ひもせず

これは、単に無情感ではなく、我々の存在を含め、作られたものすべては、瞬時たりといえども同一のままではありえず万物流転することを悟り、涌きいずる煩惱を鎮め、究極の安らぎを求め輪廻の世界から離れて真の樂に進み入る世界。それが、涅槃であると教えて下さっているとおもいます。無量寿経に説かれている「少欲知足」、日々足ることを知れば、初願は叶うと言えましょう。

善入院油掛地藏尊